

イスタンブルで抗議デモが続く

新井 春美

トルコの最大都市イスタンブルではエクレム・イマモール市長の逮捕をきっかけに、市民による大規模な抗議デモが発生した。3月19日に始まったこのデモは約2000人が警察に連行される騒ぎとなっている（BBC 2025.3.30）。デモの参加者はイマモール氏の支持者に限らない。参加者は司法の独立が侵され、民主主義が危機的状況にあるという認識を共有している。



イマモール氏のポスターを掲げるデモ参加者（CBS 2025.3.24）

野党 CHP（共和人民党）のイマモール氏は2019年のイスタンブル市長選挙において、与党 AKP（公正発展党）の重鎮だったユルドゥルム候補を下したが、AKPから選挙に不正があったとの申し出がありやり直し選挙になった経緯がある。やり直しを決定した司法にも、政権におもねっているとして市民から多くの批判が集まった。結局、やり直し選挙でもイマモール氏が前回よりも得票数を伸ばして当選した。

現職のイマモール氏が逮捕された理由は汚職とテロ組織を支援したとの容疑だが、これは政治的な動機であるというのが多くの見方である。すなわち、いまや人気、実力ともにエルドアン大統領に肩を並べ、次期大統領の最有力候補である同氏を、危機感を持ったエルドアンが追い落としにかかっているということである。すでにイスタンブル大学がイマモール氏の学位を取り消したと発表しているが、これも追い落としの一つとみられている。トルコでは大統領候補者は大学卒業が条件となっているが、大学が政権の圧力により、あるいはは忖度によって取り消しを発表したとみられている。

イスタンブルでの大規模な抗議運動は、2013年にも発生している。この時は市内にあるゲジ公園の再開発計画への抗議活動をしていた環境活動家を、警察が強引に排除しようとしたのがきっかけであった。警察の強引なやり方や、エルドアン首相（当時）の開発計画を続行しようとする強硬な姿勢に反発した多くの市民が公園に集まり、主張は再開発反対から反政府へと変わっていった。立っただけなら警察が排除する理由はない、として何時間も黙って立ち続けるというサイレント・デモを行って、抗議の意思を示し続けた人々も多かった。しかしこのデモも、政権交代へとつながる決定打にはならなかった。AKPが強固な支持を得ていたことと、野党政党が一致団結し反政府の声をまとめあげることができなかったためである。

今回のデモはこれまでにない規模となっており、野党が足並みをそろえ市民の力を結集できれば、エルドアン体制への大きな一撃になると思われる。